

北渋プロジェクト（実行委員会）は地域資源とポテンシャルを活かしたイベント（北渋フェスティバル）を契機とし、地域の中に発信拠点を創出します

①北渋プロジェクトのビジョン

北渋エリアの居心地の良さ・個性あふれる人とまちの実現を目指します

この渋谷区の北側エリア（北渋エリア）が将来にわたり、住みやすさも含めた居心地の良さを維持と向上を目指すため、未来を担う若い人や子ども、来街者たちに「この場所ならではの魅力」を感じてもらいたいと考えています。

オペラシティや新国立劇場の発信するポテンシャルを気質を活かし、音楽や芸術を中心とした「自己表現を行えるまち、人がやってくる・育つまち」を目指します。私たちは、自己表現したい人と地域の方々をつなぎ、地域住民が関わり合いつづけられる持続的な取り組みを行います。具体的な取り組みとして「北渋フェスティバル」「北渋ストリートピアノ」をスタートさせています。

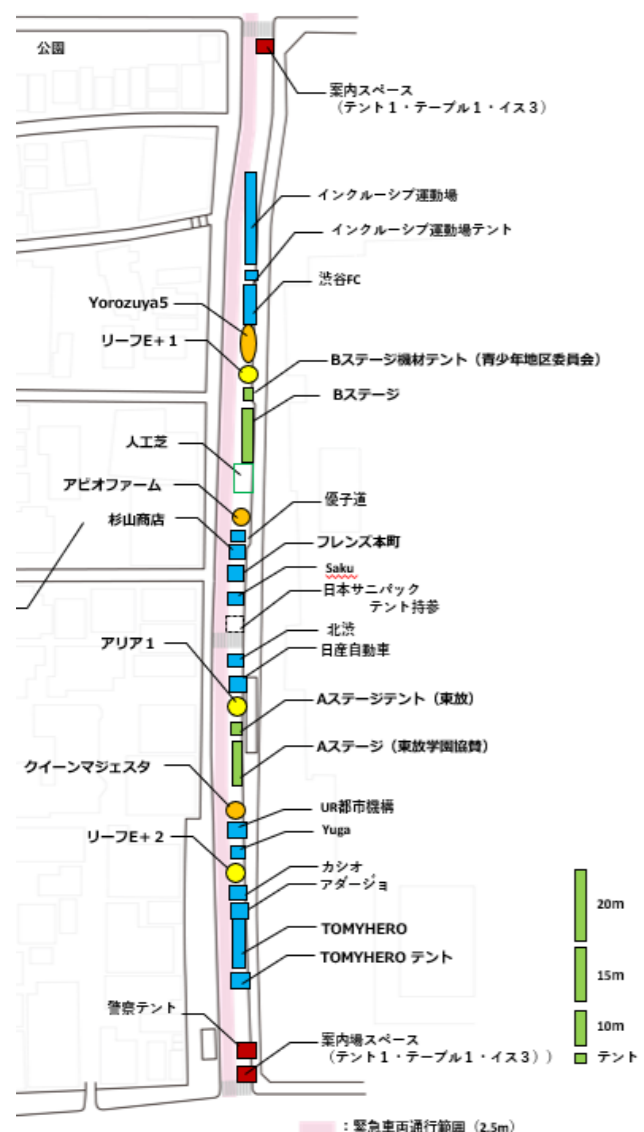


北渋キービジュアル

③北渋フェスの概要

北渋フェスティバルは、オペラ通りの道路使用許可をとり、まちのアーティストが一同に集う場となります

2024北渋フェス
オペラ通りエリア(レイアウト案)



北渋フェスティバルは、北渋プロジェクトが主催する最も大きなイベントとなります。ササハビパートナー団体の1つが取扱うイベント規模としても大きく、広範囲にわたり、渋谷区北側にゆかりのあるアーティストと区民が集う場になることに加え、コロナ禍で少なくなってしまった近隣中学校の発表の機会にもなります。甲州街道周辺のみならず、渋谷区地域観光資源開発という視点でも貢献度の高いイベントになります。今年度も、オペラシティとの連携併催も検討しています。

参加するアーティストも多岐にわたり、多様な渋谷区の魅力にオペラ通りを歩くことで出会い・感じる事ができ、アーティストの他にも、ササハビ認定を受けている団体にも触れ合うことができます。またオペラ通り商店会と連携し、面したお店のにじみ出しをイベント当日に行う調整も行い、日常的に生活を支える商店街の魅力向上に寄与し、この場所に限らない広がりとなる可能性があります。北渋ランランフェスという都心住宅街でのマラソンに加え、北渋フェスという文化的イベントは、地域交流の核となることが期待されます。

北渋フェスでは、多くのアーティストの能力を引き出すため、アーティストに合わせた環境づくりとしてPA機器といった設備機器、さらには電源供給（EV車で試みているが）のリスク回避という面ではポータブル電源も必要になります。地域交流から防災的な観点まで含め、総合的に盛り込んでいく形となります。

タイトル：「北渋フェスティバル2024」

日時：2024年10月20日(日) 11:00-16:00

【道路使用許可09:00-17:30 ※16:45完全撤収予定】

雨天中止の判断は10月19日(土) 天気予報18時にて北渋プロジェクトが判断します。
前日天気予報：雨2mm/時以上(どの天気予報をみても)
気象庁・天気JP・ウェザーニュースの3つ
※SNSへのアップも最優先に行います、その後、担当より個別にご連絡差し上げます。
雨天時はオペラ通り会場は原則として中止になります。

会場：オペラ通り ※併催：オペラシティ

実施内容：①ステージ(Aステージ・Bステージ)
②ワークショップ
③展示ブース
④キッチンカー

主催：北渋プロジェクト実行委員会

後援：渋谷区

協賛(予定)：

特別協賛：東京オペラシティビル株式会社、公益財団法人 新国立劇場運営財団、日本サニバック株式会社、日産自動車株式会社、東放学園音楽専門学校、株式会社アロークラウド
協賛：独立行政法人都市再生機構、カシオ計算機株式会社、株式会社伊藤園、株式会社ロッテ
協力：本町一丁目町会、オペラタウン商店会、渋谷区青少年対策本町地区委員会

②北渋フェスティバルの位置付け

北渋フェスティバルを契機に、北渋ギャラリーへと繋がります

北渋フェスでは、笹塚・幡ヶ谷・本町・初台を中心とした渋谷区北部の魅力、音楽やパフォーマンス、アートなどの表現活動を通して発信すると共に、道路空間を活用した憩いの場を設けて、地域コミュニティの活性化を目指します。北渋フェスは年1回の開催を目標とし、区民、アーティストらが集い関わり合う催しとして位置付けています。

フェスで創出する「表現の場」を、地域店舗、道路や空地のパブリックスペースと連携し「北渋ギャラリー」としてまちなかに広げていくことで、日常的な表現活動を支援し、多様性に溢れるまちづくりを持続的にいき、今年度より「あつまると」を運用しています

北渋運用のギャラリー「あつまると幡ヶ谷・笹塚」の様子



④北渋プロジェクトの他の活動

オペラシティイベントに北渋エリアアーティストの出演を実現

2022年8月の東京オペラシティフェスティバル以降、12月・2023年3月に東京オペラシティ施設内のサンクンガーデン やオフィスエントランスホールをはじめとした各箇所に北渋ゆかりのアーティストや団体が出演しました。北渋ギャラリー事業の一環として実施し、出演希望者とオペラシティを繋ぎました。地域の中での文化価値が高い場所をアーティストの表現の場、区民の文化・芸術体験の場、ボランティアとして関わる区民のコミュニティの場を創出することができました。地域住民やオペラシティ、周辺企業の皆様からもご期待をいただき、今後もこのような形を礎に地域での活動を展開して参ります。

その他、緑道での388FARMβでは新国立劇場とコラボしたワークショップを行い地域の中に「発表の場・環境」を創出する活動を行っています。



夏のオペラシティフェス



新国立劇場共同のワークショップ



2023年3月の北渋ワールド



連動企画の様子